

あらき通信

2026年 7月 31日 発行

(株)アラキ工務店 編集・発行 柴田秀俊

〒 615-0906 京都市右京区梅津高畝町 52-2

Tel 075-882-8668

www.kyoto-araki.jp/

Fax 075-872-0223

info@kyoto-kozai.com



新代表就任のご挨拶 ～山鉾に見る職人の心～

梅雨明けの青空が待ち遠しい
今日この頃、皆様いかがお過ごしでしょうか。

さて、この度アラキ工務店は新体制となり、荒木勇が取締役会長に、私、柴田秀俊が代表取締役に就任いたしました。

折しも京都の町にはコンチキチンのお囃子が響き、祇園祭の季節を迎えます。私たち建築に携わる者がつい目を奪われるのが山鉾



の組み立てです。釘を一切使わず木と縄だけで組み上げる「木組み」の技術。しなやかに揺れに耐える先人の知恵と、それを毎年寸分変わらず形にする職人の技には深く敬意を抱きます。

この「先人から次世代へ技を受け継ぐ」姿は、当社の歩んできた百年の道のりにも重なります。時代が変わっても決して変わらない「職人の手仕事」への誇り。私もまた、会長が大切にしてきたその技術と志をしっかりと受け継ぎ守ってまいります。

これまでの百年の歩みに深い敬意を払い、その歴史と技を大切に受け継ぎながら、これからは自らの責任のもとで会社の進むべき道を示し、全社員と力を合わせて、より良い会社づくりに取り組んでまいります。つきましては、何卒ご高承のうえ、今後も一層のご支援お引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

これからいよいよ厳しい猛暑が到来いたします。皆様、どうか体調を崩されませぬようご自愛いただき、健やかな夏をお過ごしください。

代表取締役 柴田 秀俊

社外研修2026

弊社では毎年、社外研修として建物探訪や工場見学を行っています。今年度は京都市内の4か所を訪問しました。

① 修学院離宮

江戸時代初期に後水尾上皇によって造営された山荘です。上・中・下の三つの離宮と、自然の地形を活かした広大な庭園が特徴です。離宮の中に田んぼが広がる景色はどこか懐かしく、日本の原風景を感じさせる穏やかな美しさがありました。



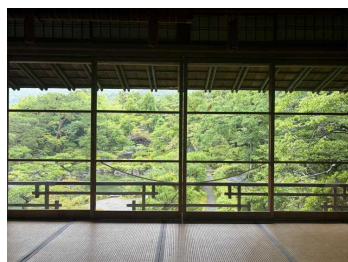
② 駒井家住宅

ヴォーリズ設計による昭和初期のスパニッシュ様式の住宅です。サンルームや出窓などの心地よい空間と機能的な収納が見事に共存しており、住まいづくりのヒントがたくさんありました。



③ 對龍山荘

名工・島田藤吉による建築と、植治こと七代目小川治兵衛による庭園が見どころの近代別荘です。東山の景観を取り込んだ庭園は開放感があり、建物との調和も見事でした。2024年から一般公開が始まったとのことで、貴重な機会となりました。



④ 京からかみ 丸二

襖などでお世話になっている丸二さんで、京からかみの工

房見学と制作体験を行いました。100年以上受け継がれてきた版木を使って唐紙を摺り、御朱印帳づくりに挑戦しました。紙や版木の組み合わせによって仕上がりが大きく変わり、それぞれの個性が出るのが面白かったです。



おわりに

京都には歴史的建築や庭園、伝統工芸など、魅力的な文化資産が数多く残っています。まだ訪れたことのない場所もたくさんあるので、また機会があれば足を運んでみたいと思います。

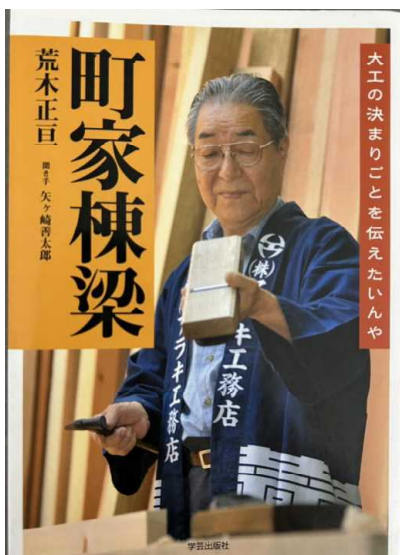
長崎 道

『町家棟梁』を読んで

見習い大工四年目の工藤です。アラキ工務店に入社する前、私は会長から前会長の著書『町家棟梁』を貸していただきました。この本には、町家改修における大工の決まり事や木の生かし方、町家の構造、当時の修行の様子など、町家について多岐にわたる内容が書かれています。

面接のときにこの本を貸していただいた私は、必死に理解しようと読み進めましたが、当時の私にはまだ難しく、読み終えても十分に理解することができませんでした。しかし、見習い大工として一年、二年と現場での経験を重ねるうちに、今やっている仕事や先輩大工さんとの会話を通して、「あの本に書いてあったのはこういうことだったのか」と、だんだん理解できるようになっていきました。当時は深く考えていなかった部分も、仕事を経験して改めて読み返してみると「あの仕事のことか」と、読むたびに新しい気づきを得ることができます。

例えば、私の先輩には、仕事で大切なことを何度も繰り返し話してくれる人がいます。本の中にも、「大事なことは若い者に何度も言わなければならない。若者は覚えるべきことが多く視野が狭くなっているため、すぐに忘れてしまう」という趣旨のことが書かれていました。



本を読んだことで、その先輩の言葉が前会長の教えに基づいたものと分かり、何度も教えてくれる理由が腑に落ちました。

私は前会長に直接お会いしたことはありません。しかし、日々の仕事や先輩方の指導を通して、前会長が伝えたかったことや、受け継がれてきた決まり事を学ぶことができていたのだと実感しています。

工藤 由佳

景観・まちづくり大学 『京町家再生セミナー』でお話ししてきました

皆様ご無沙汰しております。工場長の牛田です。馴染みの少ないお客様の場合、家のトラブルの際に修繕へお伺いするのは、大半が私になっています。その折はどうぞよろしくお願いいたします。

早いもので、工場長になって丸二年が経ちました。今では機械の整備、産廃の仕分け、材木の仕入れなど、多岐にわたり日々奮闘しております。

そんな中、京都市景観・まちづくりセンターから講師の依頼を受けました。題材は「京町家を風水害から守るために！」。ズバリ、得意中の得意です。

三十年、大工として現場に立ち、傷んだ京町家を数多く直してきました。雨に弱いところ、風に弱いところ、傷んだものを見て次に活かす工事を心がけ、身に染みついた対処方法を存分に講義させていただきました。

今、京町家のオーナー様の中にも、「この家をいつまで残そうか」「誰か住んでくれないか」と、家を残していく計画を立てられない方も多いのではないのでしょうか。その迷いから修繕が一步遅れたり、家の傷みに気づかなかったりして、大がかりな修繕工事に至る、そうした事態は避けたいものです。

少しでも多くの京町家を次世代につなぎ、我々の育った京都の街並みを守り続けます。

牛田 秀樹



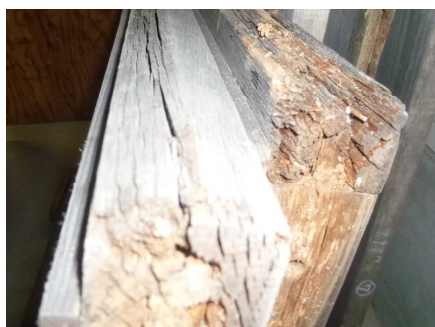
鴨川の夏を支える、納涼床のお仕事

京都・鴨川の夏の風物詩である納涼床(五月一日～十月十五日頃)を組み立てる工事を、毎年させていただいています。春(四月後半)に組み立て、秋(十月頃)に解体し、アラキ工務店の倉庫に運んで保管しています。

あるお施主様の納涼床は、期間中、毎年厳しい夏の暑さや雨風に晒され続け、経年劣化で手摺の上面や柱脚が腐ってしまい、昨年の秋には限界に達していました。

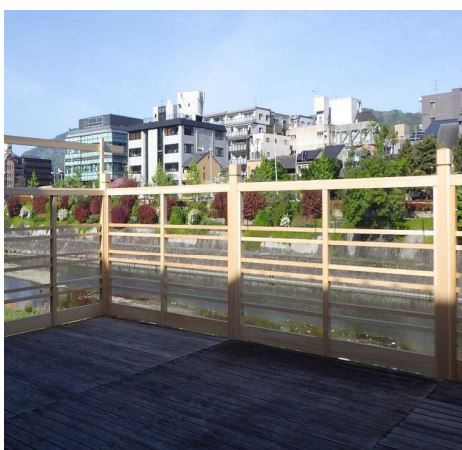


これまでは、木材が傷むたびに、見えない部分へ補強プレートを取り付けたり、添木で補強したりと、何度も試行錯誤しながら持たせてきました。



ですが今年、手摺が壊れて事故が起きてはいけませんので、昨年秋に納涼床を片付けた後、お施主様に傷み具合をご説明・ご相談のうえ、冬の間に、傷んでいる柱や手摺、階段などを取り替えることにしました。

すべて桧の化粧材(節のほとんどない材)を使用し、仕口継手の見えない裏の部分まで撥水材(透明)を塗って長持ちするようにし、見えない箇所はボンドとビスで固定



しています。六メートルある長い部材(暖簾掛け)には、ぱっと見ただけでは分からない、丈夫な継手を施しています。この見えないところで木と木を継ぐ大工さんの技術は、本当にすごいものです。

新しい桧の手摺は、触った感触がとてもすべすべして気持ちよく、たまりません。

これからも、いつまでも後世に残る仕事に携わっていきたいです。

嶋林 貴之

梅津小学校5年生の皆さんが当社に！

2026年1月23日、小学校の総合学習に協力しました。

なんと総勢84名。今まで受け入れたことのない人数です。3クラスの体験ローテーション考えたり、ストーブレンタルしたり、立入禁止コーン立てたり、トイレを男女別に準備したり、と結構大変。

でも、これを機会に「大工さんになりたい!」とか、「木材っていいな」って思う子供たちが増えたらいいなと。



北海道ビルダース協会との懇親会



2026年2月20日に開催。若手大工さんたちの交流会です。毎年の恒例行事のようになっていますが、今年はなんと、鵜工舎の小川総棟梁がお見えに!

大工さんたちテンション上がってしまい、芸能人のように写真撮影会になりました。

令和7年度/ムラ優秀技術賞



お台場にある乃村工藝本社に招待いただき、授賞式に参加してきました。「町家改修の枠を超えた技術力ー伝統工法と仕上精度で築く保存活用」というテーマでの受賞です。

大変名誉なことです。これからも、大工技術を磨いてよりたくさんの方の町家を直していきたいと願っています。



京都市は面積の74%が森林です。この団体は、そうした森林に関心がある企業・大学が集まりお互いに情報交換を進めています。

この度、メンバーの方々に当社の施工現場をみていただき、京町家を構造から改修する大切さを知っていただきました。町家を1軒でも残そうと思っていただける方が増えたらありがたいです。

大工の桜井君と現場監督の小野君が独立・転職しました！

桜井君は20年、小野君は19年当社で頑張ってもらいました。本当に感謝です。2人が改修した京町家や民家は100軒を超えています。

桜井君は独立し、個人事業主としてこれからも京町家の改修に尽力するとの決意で旅立ちました。小野君は他社に移り、やはり京町家のリフォーム事業を新しく立ち上げるとの事です。

当社にとっては、戦力面で痛手です。でも、こうして町家をきちんと直すことができる大工や監督が別のステージに挑戦するということは、町家を改修する戦力が增えることにほかなりません。今まで町家を直したことのない大工さんたちにも技術を伝承できますし、町家を潰して分譲住宅を提案してきた監督さんにも町家を残すように促すことができます。

2人とも新天地で是非活躍してほしいと願っています。



新景観政策から18年、前回の白書発行から5年が経過した節目に合わせてまとめられた最新版です。

このたび、表記資料に「景観に関する事業者の取組」が取り上げられ、民間団体で唯一京町家作事組の活動が紹介されました。当社は京町家作事組発足時からのメンバーの一人です。その中で、当社の施工事例が2軒紹介されています(伏見区O邸、東山区A邸)。是非ご覧ください！

令和7年度 京都市景観白書



令和8年3月
京都市
CITY OF KYOTO



荒木 勇

休日の過ごし方が、仕事を変える

休日をどのように過ごすかで、仕事の質や周囲とのコミュニケーションにも良い影響が生まれると、僕は思います。

とある土日の連休、土曜は妻と娘と藤森神社へ紫陽花を見に行き、日曜は妻と阪神競馬場へ行って、とても充実した時間を過ごしました。

平日はしっかり働き、休みの日はしっかり遊ぶ(休む)。このメリハリを大事にすることで、体力が回復するだけでなく、「楽しい時間を過ごせたから、また明日からしっかり頑張ろう」と前向きな気持ちに切り替えることができ、心身が整います。

土曜の休みがなかった頃は、休みから得られる経験も少なく、精神的な余裕もなくて仕事モードが抜けきらず、身近な家族に対しても厳しく接していたように思います。休みが増えたことをきっかけに、いつも仕事を支えてくれている家族のありがたさにも改めて気づくことができました。そのような環境を整えていただいたことに、感謝しています。

僕たちの仕事には、技術はもちろん必要ですが、お客様や他業者とのコミュニケーション力や感性も欠かせません。そのためには、視野を広く持つことや、さまざまな価値観に触れることが大切だと思います。

休みで経験したことを会社の人たちと話すと、全く違う分野の話でも共通の話題でも、皆で共有することで自分の狭

い世界の常識にとらわれず、客観的で広い視野を養うことができ、さらには仕事に生かすこともできます。

ですから、いろいろな人と会話することや、休日の職場外での体験は、巡り巡って仕事のパフォーマンス向上にもつながり、お客様へより良いものを提供することにもなると思います。

だからこそ僕はこれからも、休日を全力で楽しみ、そこで得た経験を日々の仕事へと還元していけるように過ごしていきたいです。

齊藤 優介

地域を守る消防団活動



アラキ工務店で、植木屋兼てつたい(手伝い)をしている安田です。

私は、地域の活動として消防団に約十年ほど携わっています。普段は、毎月五日と二十日の夜に防火運動の広報活動を行い、年に数

回の消火訓練をし、火災や災害の際には、消防団として活動しています。先日五月二十四日には、京都御所にある野球のグラウンドで上京消防団の総合査閲があり、仲間たちと、厳しい訓練の成果を発表してきました。

これからも、アラキ工務店の仕事と、地域のための消防団活動に励んでいきたいと思います。

安田 晶紀

現場監督として新しく仲間入りしました

初めまして。このたびアラキ工務店に現場監督として入社しました、吉川権(ちから)です。

長野県の出身で、幼いころから古民家や町家に



興味があり、京都の専門学校で四年間勉強し、このたびアラキ工務店に入社いたしました。京町家の外観や、大きなゴロンボ(梁)を見ることが好きです。 まだまだ分からないことだらけですが、先輩にアドバイスをいただきながら、少しでもお客様に喜んでいただけるよう、日々努力してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

吉川 権

桜鯛シーズン 大島で七十二センチ！

若狭・大島へ鯛釣りに行ってきました！！

五月に、若狭の大島から船に乗り、いつものメンバーで鯛釣りに行ってきました。メンバーの中には、大工の中村君もいます。

最近の良い釣果がなく、桜鯛シーズンに期待しての出船です。朝五時半に出発し、ポイントまで一時間ほどで到着。まだ風とうねりが残る中、仕掛けを投入すること数回、手応えあり。竿も大きく曲がり、大物の感触です。上がってきたのは、七十二センチの雄の真鯛でした！

その後はアタリがなく、船長からポイント移動のアナウンス。約三十分走って再開すると、アタリはあるけれどもなかなかかからず……小さめの鯛を追加して終了しました。ちなみに、一緒に行った中村君は調子が良く、五十センチから六十センチの鯛を七匹も釣っていました。

持ち帰った魚は、自分で料理します。雄の鯛でしたので、白子ポン酢、お造り、あら炊き、天ぷら——すべて旨いです。特に鯛の天ぷらは絶品で、みなさんもぜひ試してみてください。

足達 宗凡



法被 はっぴ

先日の京町家再生セミナーで、牛田君が着用していました。

長かったので、カットして帯ができました(牛田工場長作)。大工仕事もきれいで早く、何事も器用な、頼れる工場長です。次の出番は、どこで何をするのかな？ 京町家・古民家の改修・リフォームのアラキ工務店、北岡からの一言でした。



北岡 真由美

